

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」では、国語、算数、理科の全教科で全国平均、東京都平均を上回った。
 (国語)
 ○全項目の中で、「我が国の言語文化に関する事項」では、正答率が90%近くになった。
 ●漢字の書き取りや文章全体の構成を捉えて要旨を把握することが課題である。
 (算数)
 ○全ての領域において、全国平均・都平均を上回った。
 ●「割合」「数直線を用いた分数の単位」「グラフの読み取り」で東京都平均を下回った。
 (理科)
 ○知識・技能においては、全国平均・都平均を上回った。
 ●エネルギーを柱とする領域では、身近な金属についての問題や電気を通すものの性質についての理解が課題である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 基礎基本の定着を促す指導を工夫すること
- 個に応じた指導法を工夫すること
- 表現力を向上させる手立てを工夫すること
- コミュニケーション能力を向上させること
- 一人一台端末をより効果的に活用し、個別最適な学びを実践すること
- 自己肯定感を高める指導や生活の工夫
- 学習の有用感や学ぶ楽しさを感じさせる指導の工夫
- 家庭学習習慣の定着の促進

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○学習の流れ(学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り)を毎時間行うことで、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。また、児童が主体的に取り組めるよう授業改善を進める。
 ○保護者と連携し、家庭学習を充実させる。学年×10分間(第1学年は20分間)の家庭学習を実施することで、基礎的・基本的な学習内容の定着、学びに向かう力の育成を目指す。一人一台端末を活用し、個別最適な学習となるよう工夫する。
 ○習熟度別少数指導や協力、認め合い、学びの深化などの協働学習を行うことで、児童が学びたいと思える魅力のある授業づくりを行う。そのための教員の指導力向上に努める。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
<p>○各教科等の特性や単元、題材のねらい、児童の実態に応じた学習計画を立て、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」の流れを定着させ、児童の学びに寄り添っていく。</p> <p>○児童が「誰と学ぶか」、「どこで学ぶか」、「どのように学ぶか」などの自己選択や自己調整をしたり、試行錯誤したりする場を設定する。</p>	<p>○INPUT→THINK→OUTPUTの流れを授業の中に設定し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、思考力や表現力の向上を目指す。</p> <p>○新しく獲得した言語を学習や日常生活で使用する機会が増えるよう、基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定し、特に子どもが主体的にOUTPUTする場面を設ける。</p>	<p>○各教科等と生活科・総合的な学習の時間を横断的、総合的に関連付けた単元配列表を基に、児童が自己選択や自己調整ができる学習計画を立てる。</p> <p>○児童が主体的に課題設定を行い、学校図書館やタブレットを効果的に活用しながら情報収集できるようにする。</p> <p>○自己選択や自己調整の過程で児童が学びを深めたり、広げたりできるように、児童一人一人に寄り添って支援する。</p>

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
<p>○学びのエリアで小・中一貫した指導の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4校で各教科等の指導方法について、ノート指導や発表方法、協働学習の進め方について相互理解を図る。教師の専門性を生かした情報交換や情報共有を行い、9年間を見通した指導を展開し、学びのエリア全体の学力の向上を図り、読み解く力を育成していく。 ・生活指導や学習規律、家庭学習の方法についても情報を共有し、約束やルールについて適宜見直し、徹底していく。 <p>○板橋iカリキュラムの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的読解力の6つの分類を踏まえた教材研究を行い、「わかる・できる・楽しい」授業を実践する。 ・SDGsの達成に向けた環境教育を通して、児童の「環境についての感受性、共生や思いやりの心」、「環境に対する見方・考え方」、「環境に働きかける実践力」を育成する。 	<p>○校内研究「主体的に学習に取り組み自分の考えを表現する児童の育成～ユニバーサル・デザイン・ラーニングの実践を通して～」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分はどう学びたいか」「どうすれば分かりやすいか」を児童一人ひとりが考え、自分でオプションを選択して個別最適学習を進めていく。教師自身が思い込みや当たり前の概念を解放し、「子ども視点の授業」を意識して実践する。 <p>○板橋授業スタンダードSの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間の充実 ・教科等横断的な視点で複数の教科との連携を行い、効果の検証と改善を行う。 ・学校支援地域本部を中心として、地域との連携を行い、学校内外の教育資源として、人的・物的資源を有効に活用する。 	<p>○一人一台端末の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びを深めるツールとして、「オクリンクプラス」やGoogleのドキュメント・スライド等を、全学級で効果的に活用する。考えの共有を図ったり、表現方法を工夫したりして思考力・表現力を高める。また、共同編集による意見の交流や考えの表現を行う。 ・ICT機器を最大限活用し、誰一人取り残すことのない分かりやすい授業を実践する。 <p>○情報モラルの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの活用ルールを児童や保護者に周知し、ICT機器を適切に活用できるようにする。 ○個別最適な学びと協働的な学び ・「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理し、児童生徒が自己調整しながら学習を進めていく。 ・探究的な学習や体験活動などを通じ、地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら学習を進めていく。